

会 議 概 要

1. 会 議 名 第1回安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会
2. 日 時 令和8年7月31日（金）午前10時から正午
3. 会 場 豊科交流学习センターきぼう 多目的交流ホール
4. 出 席 者 （敬称略）出井博文、百瀬陽子、尾碁ゆみ、福盛二郎、桑澤妙美、菊池聡、
廣瀬豊、望月静美、山口敬之、北村早希、柳澤勝久、石田悠真、嶋田奈麻美
5. 担当課出席者 副市長、政策部長 小林、人権共生課長 堀金、太場、岡村
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人 1人 記者 0人

1 開会（人権共生課長）

2 市長あいさつ

安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例の基つき、「多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」を策定し、取り組んでいる。共生社会とは、すべての人の人権が尊重され、あらゆる分野で能力等を発揮できる社会。実現のためには、様々な人の多様な生き方を認め合うことが必要となる。

委員の皆様には、さらに前進するためにご協力をお願いしたい。

3 自己紹介

4 会長・副会長の選出

- ・会長 : 弁護士 出井 博文 様
- ・副会長 : 安曇野地区保護司会 百瀬 陽子 様

5 諮問

（諮問の内容は別紙のとおり）

6 協議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒人権共生課】

（1）多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会について

（人権共生課 説明）

【質疑応答なし】

（2）安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画について

（人権共生課 説明）

【質疑応答】

- ・数値目標については、第一次の計画策定の際にも検討したが、決め手がない。目標が高すぎると実現可能性が低くなり、モチベーションにも関わる。また数値目標化することが適切であるかについても検討が必要。

- ・男女共同参画からより幅広い計画となったことで、市民や協力先への周知が難しい。広報紙等もあるが、認知されるまでが難しい。その点も含め、重点的に進めるという観点も着目すべき。
- ・達成できた点もあるので、さらに進めなければ達成が難しいものについて、重点的に取り組むべき。
- ・多文化共生については、地域の日本語教室や市の相談窓口等は活用できているが、日本語教育だけでなく、様々な国の方が安曇野市に来ており、インバウンドの方が増えている状況もあるので、その点も考えながら注視していただきたい。
- ・女性活躍について数値は悪くないが、状況の改善につながっていないように感じる。例えば男性の育休についても、数値は上がっているが、それを周囲の人がフォローしているのが現状。育休後についても、多くの女性は時短勤務になるが、男性は経済的に難しい。そういったところのアンバランス感を追っていかないと本当の意味での男女共同参画が実現しない。数値だけでは見えない差があるのではないか。
- ・資料は市民に公開されると思うが、単語や団体名等正確に記載していると思うが、わかりやすく伝えるという観点が落ちている。わかりやすい形でまとめて欲しい。行政側にはわかるが、市民に分かりにくい箇所がある。すぐには難しいと思うが、少しずつ改善してほしい。

(3) 策定スケジュールについて

(人権共生課 説明)

【質疑応答】

- ・アンケートについて、家族に届いていたが、言葉が難しい。誰に何通送付しているのか。
⇒日本人向けについては、無作為抽出にて2,000人に送付している。その他、外国籍市民向けと事業所向けに送付している。外国籍市民向けは、18歳以上の外国籍市民の方全員。事業所は最終的に5人以上の従業員がいる市内事業所すべてに送付した。

(4) その他

- ・数値目標に限らず、これまでの成果を言葉として残しておくことも大事。計画期間の5年間の変化があったと思うのでうまくとらえながら、策定できるとよい。海外では産業のソーシャルワークとして、ワークサポートケアマネジャーを導入し、働きやすさや働く環境をどう整えるのかということもやっている。そういったことを実績に含めていけると、評価にもつながるのではないか。
- ・計画が多岐に渡っており、目標達成は難しいと感じている。重点的に進めるのが良いと思う。
- ・幸せに生きていくために何が必要か、小さいことから始めたい。
- ・人の尊厳、相手の尊厳を大事にしていくための講座を開催してほしい。
- ・これまでの学校教育とは変わってきているが、社会全体が変わっていないと教師の意識を変えるのは難しい。これまで一つのカリキュラムを全員に当てはめていたが、今では一人ひとり個別のカリキュラムを組むという方法に変わってきている。AIもあるが懐疑的であり、どうしてよいかわからない人も多い。そうすると「これまでどおり」のラクな方へ流れやすい。意識を変えることが必要だが、難しい。

- ・配偶者の日本人が先に亡くなってしまい、外国籍市民の方が残されるというケースがあった。残された方は、日本の文化やシステムに戸惑われる場合が多く、今後はこうしたケースが増えていくのではないかと懸念もある。また地域から孤立しがちになるという懸念もある。さきほどのケースでは、同じルーツのコミュニティを探すことに苦労した。地域のボランティア等のつながる方法を模索している。
 - ・女性の管理者をどのように増やしていくか。歴史が長い会社ほどそれまでの風習等がある。ただし、国からの圧力があり、現状把握、計画、結果を出すようになっており、やりやすいところもある。概念論、観念論的な話ばかりになっているが、数値化できるものは、なるべく数値目標化した方が明確化できる。また、女性の管理職については、女性自身がなりたがらない傾向がある。そのような環境になっているということ。会社全体で盛り上げていくことが必要。
 - ・男女の差がどこにあるのかも考えると、宿直等の対応をどこまでお願いできるか等企业によって異なるため、一概には言えないところもある。
 - ・若い方への教育についても、難しいところもあるように感じる。
 - ・大企業になればなるほど、多様性への取組が進んでいる。中小企業については、現実に沿って動いているため、数値目標などをもって取り組むというものの一つのやり方。
 - ・資料については、一般の方が見てわかるように、頭を柔軟にして、わかりやすく表現していただきたい。
- これまで男性の組織の中で組みあがってしまっている。その視点から足りないものを発見しにくい。女性の意見を聞きながら、組織を組み立てていくべき。大企業でもこれからというところもあり、その担当者の大変さを共有、共感することも大切。
- 資料の分かりづらさについては、優先順位もつけることも提案したい。
- ・平均的なことができることを求められているが、できない人もいる。そういった人たちを尊重し合うことも大切。声をあげない人もいる。いろんな属性の方等の多様な方の意見を集めながら、つくり上げるということに価値を感じている。
 - ・いろんな属性を持っているが、自分にできることがあることが嬉しい。
 - ・声があげられない人もその人なりの在り方でこの町にいるということを踏まえたうえで、自分たちに何ができるかというところを一緒に考えていきたい。
 - ・一歩踏み出した先にケアされる場が加わっているような温かいまちであったら良いと思う。
 - ・社会教育の中に人権がより一層入っていかなければならない時代になってきた。地区や生活レベルにまでこの「多様性」を伝えるにはどうしたらよいのかを考えなければならない。
 - ・市の組織の横のつながりが足りていない。みんなで学んで、みんなで意識することが必要。重点的に部会などを設けて、皆で考える必要がある。数値目標を達成したら、市民や区民が幸せになれているか、ということを考えなければならない。
 - ・世代間の違いはあると思うが、自分たちが振り返ってみて良かったと思うことは子どもたちに伝えていって良いと思う。
 - ・コミュニティや団体を大事にすることも大切。その方たちの協力を得て計画ができたというような市民向けの表現があるとより多くの人に興味を持ってもらえるのでは。
 - ・具体的に何をどう進めるのか。観念的、概念的な計画になるのか。アンケートの内容について

も共有いただきたい。

⇒「共生社会」は概念的な部分もあるが、理想とする共生社会に近づけるために何ができるのか、実現に向けた具体的な施策を入れた計画にするために、ご審議いただきたい。アンケートの設問については、郵送にて共有させていただく。

- ・いろいろなことが網羅されているが、これから重点的なものをピックアップして示すなど、メリハリつけると審議しやすい。

⇒ご指摘いただいたとおり。かなり幅広い分野となっているため、審議しにくい、進めにくい状況となっているところがある。次期計画については、重点目標の設定等改善したいと考える。

- ・この5年間のやってきたことのふり返りがあると、今後の5年間の見通しが立つのではないか。5年間のダイジェスト版があるとよい。
- ・アンケートの結果を具体化できるように進められるとよい。
- ・重点的に進めたり、優先順位をつけたりする必要がある。そのための資料として、計画策定からの4年間の成果と課題を示していただきたい。
- ・優先度は大事だが、優先度をつけることでこぼれる部分がある。数値目標も大事だが、なぜその数値目標が必要とされているのか、その背景まで記載があると、興味を持ってもらいやすい。やらなければいけないことは、マイノリティの人たちになにかを求めるのではなく、多数派の人達が興味をもって知ることなので、その視点があるといい。
- ・計画は、当事者の立場に立って作られるべき。横のつながりを作りながら計画を作っていくことが大事なので、検討いただきたい。

7 閉会

(以上)